



# 雨ニモマケズ

## 「学を修める旅行、それが修学旅行」

校長 原 直樹

5月17日から2泊3日の修学旅行に行って参りました。昨年もそうでしたが、今年も福中は、中津川市小中学校のトップバッターでの修学旅行でした。コースは、白川郷合掌村、能美市での九谷焼研修、金沢班別研修、黒部アルペンルート通り抜け研修でした。昨年度、コロナをきっかけに新しく設定したコースですが、学ぶべき内容の詰まった、大変充実したコースです。今年度も生徒たちの様子を見ていて、さらに価値のある修学旅行であることが実感できました。

1日目は、白川郷合掌集落の見学からスタートしました。しかし、現3年生の福岡小出身者は、6年生で訪れた経験があるとのことで、ここでは飛騨牛御膳の食事程度の滞在時間としました。それに代わる訪問地として、石川県能美市の九谷焼美術館に行きました。ここでは、陶芸作家、美術館学芸員、陶芸研究員などの方との座談会を行うことができました。2グループにお一人ずつが座談会に参加してくださり、生徒たちの質問に答えつつ、九谷焼に関わる仕事への誇り、伝統工芸の素晴らしさ、九谷焼を継承していく苦勞、人生の先輩としての助言などを語ってくださいました。生徒たちは、江戸時代の古九谷から現代九谷までを見学したり、実際に絵付け体験をしたりしました。体験の最後に、お礼の気持ちをこめた合唱をしました。合唱のあと、絵付け体験館の佐久間課長さんは、長い拍手をされ「わぁー、まさに学を修める旅行ですね！」とお声を上げられました。九谷焼美術館での生徒たちの学ぼうとする態度と姿勢に、佐久間課長さん方は感激されていました。

2日目は、金沢市内での班別研修でした。金沢市内1日フリー乗車券で、市内の路線バスに乗って、班ごとに計画した研修場所を訪れました。今年度は、どの班も必ず1つは現地体験をすることにしていました。金箔貼り体験、着物着付けレンタル、和菓子作り、お茶体験、起き上がり手描き体験など、様々な体験を行い、金沢市街を散策しました。1日目の九谷焼にしても、2日目の金箔貼りにしても、江戸時代の加賀百万石の繁栄を物語る絢爛豪華さを、生徒たちは肌で感じる事ができたと思います。

3日目は、立山から黒部アルペンルート通り抜けコースの体験でした。ケーブルカー、トロリーバス、ロープウェイ等、珍しい乗り物に次々と乗りついで移動でした。雪の壁（雪の大谷）は、今回は11月、黒部ダムなど、あいにくの雨でしたが、生徒も教師も、全てが初めてのことばかりで、貴重な体験ができました。

福中の修学旅行の中心テーマは「キャリア教育」です。生徒たちは、この修学旅行を通して「先人の生き方を学び、自分の生き方に生かす」ことを念頭に置いて学んできました。そういう意味で、この修学旅行は大成功であったと感じています。自ら学ぼうとする、福中3年生に「君たちは、本当によい修学旅行を実現させたね！」と、心からほめてあげたいです。

